

平成29年度第2回伊勢原市社会福祉審議会 会議録

〔事務局〕 保健福祉部福祉総務課

〔開催日時〕 平成29年11月21日（火曜日）午前10時00分～11時40分

〔開催場所〕 伊勢原市民文化会館

〔出席者〕

（委員）東奈美委員、松岡俊委員、渡辺雅彦委員、小島厚委員、石井良秋委員、
新倉良一委員、橋本澄春委員、麻生貴之委員、大杉あや子委員、山田千尋委員、
若松操委員、宮川進委員

（欠席）石塚恒夫委員、丸山浩委員、秋澤孝則委員、山崎一郎委員、秋山浜子委員

（事務局）保健福祉部：小林部長

福祉総務課：三河課長、山内係長、近藤主事

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

《審議の経過》

1 報告事項

- （1）第5期伊勢原市障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画の策定について
- （2）第7期伊勢原市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について
- （3）第3次伊勢原市食育推進計画の策定について
- （4）健康いせはら21（第3期）計画の策定について

2 協議事項

- （1）第4期伊勢原市地域福祉計画の策定について

3 その他

【会議概要（委員からの主な意見・質疑内容）】

1 報告事項

- （1）第5期伊勢原市障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画の策定について
- （2）第7期伊勢原市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について
- （3）第3次伊勢原市食育推進計画の策定について

(4) 健康いせはら21 (第3期) 計画の策定について

(議長)

それでは、本日の議題は、前半が地域福祉計画を除いた計画の進捗状況、後半が地域福祉計画についてとなります。それでは事務局から説明をお願いいたします。

【事務局より資料に沿って4件まとめて説明】

(議長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。

(議長)

地域包括支援センターが5か所になるということは、圏域の高齢者人口はある程度均一になるということでしょうか。

(事務局)

地域包括支援センターを新たに設置する予定なのが、成瀬地区と大田地区を範囲とする伊勢原東部地域になります。この地域は高齢者人口が伸びており、規定の高齢者人数より多いので1か所増設ということになります。区割りの部分については、地域性を考慮して検討していきたいと考えております。

(議長)

地域福祉計画に掲載されている情報の発信や相談体制とも関連があるので、地域包括支援センターの強化というのは大切になってくると思います。

(委員)

伊勢原東部地域にある地域包括支援センターは、介護老人福祉施設の中に設置されているので、入りづらいというような意見もありますが、現在ある地域包括支援センターを独立させるという考えはないでしょうか。

(事務局)

御意見ありがとうございます。地域包括支援センターの使い勝手については、運営事業者と検討していきますので、現状では独立させるということは考えておりません。

(委員)

私は居宅介護施設を運営しており、地域包括支援センターとの連携も取っていますが、ケアマネジャーからは行きづらいといった意見は聞いておりません。しかし、利用者の立場になって考えると、そのようなハード的な意見が出てくることもあると思うので、利便性について考えていかなければと思います。

人口のこともありますので、東部地域にもう一か所地域包括支援センターができることで、市内の高齢者支援が充実するのかなと思います。

(議長)

相談体制の充実という希望が多いので、そのあたりも反映した形になれば良いと思います。

(副会長)

前回聞き損ねたことがありますして、最近子どもの貧困が取り上げられることが多く、伊勢原市の現状をどう把握されているか、今後どのような対応を行っていくのかということをお聞かせください。

(事務局)

市の現状把握についてですが、なかなか実態把握が難しいという状況です。どのような状況を貧困と位置付けるかということで、一人親世帯、生活保護世帯、就学援助を受けている世帯という人が対象になると考えておりますが、伊勢原市内にどのくらいの数があるかということは把握しきれないところがあります。

対応としては、子どもの貧困に対する施策をパッケージ化して、パンフレットとして製本、配布をして制度の周知をしていくことを考えています。また、支援施策をトータル的に案内するためにワンストップ窓口を市役所内に設置することを予定しています。

(委員)

国で発表している貧困率というものがありますが、これは国だけが持っているデータで出しているもので、都道府県単位での数字は出せないということです。サンプルが粗いため、都道府県別、市町村別にすると実態に合わなくなってしまうようです。

別の研究機関が算出した数字によると、貧困率は西が高く、東や北陸は低いという結果でした。神奈川県は、半分より良いという状況だったので、全国単位の貧困率よりは良い状況なのかなと思います。ただ、母子家庭に限ると半数以上が貧困状態となっています。この状況は伊勢原市でも変わらないと思うので、子ども食堂を含めて、母子世帯への支援を手厚くしていくというのは良いことだと思います。

(委員)

私も一度子ども食堂を開催したのですが、予算取りが難しいと思いました。自治会で行ったバザーの収益から予算を捻出し開催しました。盛況に終わったので予算の確保ができれば続けていきたいと思っています。

(議長)

貧困の問題に食育と関連する可能性はあるでしょうか。

(事務局)

伊勢原市では、保健福祉部と子ども部、教育部の3部で連携・連動チームを組みまして、ト一

タ的に子どもの貧困対策を含めて様々施策を検討しているところです。食育や子どもといった関連は、現在はございませんが、将来的には考えていくことになるかもしれません。

(委員)

子ども食堂の役割は、お腹をすかせている子どもたちが「食べる」ということもあるのですが、食べている様子を見ながら子どもたちの話を聞くというところに重要な役割があります。きちんと食べられていないとか、歯の健康面などを見て、専門機関につなげるというものなのですが、なかなか認識されていないかもしれません。子どもたちの話を聞くことが食育につながると思います。

(副会長)

子ども食堂はみんなで食べるということに意義があるとも聞いております。先ほど、予算の問題についても御意見が出ましたので、今後のことを考えると予算付けというのが大事になるとお思いますので、ぜひ御検討いただきたい。

(委員)

先ほどのお話のあったワンストップ窓口も、予算の問題もあり市町村単位で解決していくのはなかなか難しいと考えておまして、県レベルで受け止める必要があるという議論もありました。最近、一人親家庭の相談ダイヤルを神奈川県で設置しました。県の相談体制と市町村の相談体制をうまくかみ合わせて支援していかなければと考えています。

(議長)

介護保険事業計画でアウトカムを求められるというようなお話がありましたが、そのあたりについては何かございませんでしょうか。計画の緻密性も求められるので大変かと思いますが。

(事務局)

介護保険の計画につきましては、11月30日に策定委員会が行われるので、その会議の中で議論されると考えております。

介護保険の計画は数量的なアウトカム目標を求められるという話がありますが、国から具体的なものが出てきておりませんので、今後、具体的な指針が出てくれば、対応していくという考えです。基本的には策定委員会の中で話していくということになります。

(議長)

介護予防や療養等に関して、医療機関に携わる委員から御意見を聞きたいと思いますが、いかがでしょうか。医療機関は病気になってからいらっしゃる方がほとんどなので、難しいかもしれませんが、何かありましたらお願いします。

(委員)

おっしゃるとおり、病院は病気になった人がいらっしゃることが多いのですが、市民公開講座という形で、年に数回講座を開いています。骨折のことや、あらゆる病気に対する医療法を説明

しています。年々参加者が増えており、人数制限をかけるほどになりました。このような講座に出てこられる人は意識が高いのかと思いますが、来られない人に対して、どうアプローチしていくのかというのが課題だと思います。

そのほかに、伊勢原市内のリハビリ職で集まり、市の介護予防教室のお手伝いをするといった取り組みも増えているところです。

(委員)

6月に歯と口の健康週間があり、毎年市民向けの講演会を行っております。最近は知れ渡ったようで、シティプラザのふれあいホールに入りきらないくらい集まるようになりました。市民の健康に対する関心は増えてきているのではないかと思います。

2 協議事項

(1) 第4期伊勢原市地域福祉計画の策定について

(議長)

続きまして、協議事項(1)第4期伊勢原市地域福祉計画の策定について、事務局より説明をお願いします。

【事務局より資料に沿って説明】

(議長)

ありがとうございました。パブリックコメント前の段階ということで、この審議会で御意見を賜りたいと思います。

計画に掲載されていたアンケート調査は年代別に区切って分析などは行っているのでしょうか。

(事務局)

アンケート調査については、地区別と年代別に区切って結果は集計しております。

(議長)

情報提供が課題になっておりますが、年代別にどのような特徴があるというような分析はされていますか。

(事務局)

年代別の細かな分析は行っておりませんが、全体として情報の入手が難しいということが出てきているので、何らかの対応をしていきたいということで、今回の計画に掲載してあります。

(委員)

地域の組織についてですが、自治会は町内会の集まりと、その下の「となり組」というものがあります。伊勢原市内のすべての地域に「となり組」があるのかは分かりませんが、10軒くらいの世帯で構成されていて、お互いの顔を知っているという状況です。先日、防災講演会ということで、伊勢原市と災害時協力協定を結んだ熊本県宇土市長がいらっしゃいましたが、一番役に

立つのが「となり組」組織だとおっしゃってありました。災害時に『同じ「となり組」の誰々がいないから現場を見てくれ』といった救援要請を出すこともできます。昨今は個人を優先し、あまりプライベートに突っ込むことはしないのかもしれませんが、こういった「となり組」組織について、今一度考えていただければと思います。

(議長)

アンケート結果でも災害時の重要度が大きくなっているところです。このあたりは点検推進委員会等で何か話されていますか。

(事務局)

地域のつながりというところでは、いろいろと御意見をいただいております。「となり組」のような組織で地域の課題を解決できるような体制を作っていきたいということは、地域福祉計画のひとつの大きな目標でもあります。

(委員)

社会福祉協議会では、市で対応ができない、いわゆる「狭間」の人をどのように助けるかということで活動しております。今回審議している地域福祉計画と、社会福祉協議会で策定している地域福祉活動計画は、それぞれの役割の中で活動をしていきたいと考えております。

生活困窮者の問題がこれから大きくなっていくと思いますが、生活困窮者と生活保護の線引きはどういう形で行うのでしょうか。

(事務局)

生活保護は生活保護法による基準がありますので、該当する方は生活保護、そこまでは至らないけれども日常生活で困っているという人に対しては生活困窮者支援事業での対応となると考えております。

(委員)

生活困窮者自立支援については、最終的には社会福祉協議会に業務が来ると考えています。実務を行う上で、今言われたような取扱いが非常に難しいと思いますし、現在の人員での対応は難しいと考えています。今後担当と具体的に話を進めていきたいと思います。

(委員)

計画書の19ページ、児童福祉の現状説明にグラフは掲載しないのでしょうか。

(事務局)

現状は表やグラフは掲載しない形で進めたいと考えております。

(委員)

児童福祉というと児童虐待の現状について知らせていく必要があるのかなと思います。児童虐待で大きな事件が起きたとき、近隣住民がそれに気づけないというのは、関心がないからだと思

います。児童虐待の件数が増えるということは、一見悪いように見えますが、関心が高まっているという考え方もできるので、一般の人が関心を抱くような形にしていいただければと思います。県の計画には掲載されていたかと思うので、一考いただければと思います。

(事務局)

虐待に特化したことであれば、基本目標3の(5)権利擁護の中に虐待防止事業がありますので、そちらに高齢者、障がい者、児童を含めた虐待のことについて個別に評価していければと考えていますがいかがでしょうか。

(委員)

児童福祉の分野だけデータがないので、少し寂しいなと思いました。

(議長)

何らかの数字がある方が、分かりやすいので、事務局にはご検討いただければと思います。

(委員)

相談支援体制の充実に関連して、先ほど地域包括支援センターに入りづらいという意見もありましたが、コンビニにケアマネジャーを配置して相談しやすい体制を整えているという話も聞きますので、人が集まりやすいところで事業を展開できたら良いかなと思います。

(委員)

福祉サービスを提供する事業者と受け手側のどちらの立場でもあるので、なかなか意見を言いづらいところがあります。サービスは受けたいけど、事業者としてはぎりぎりの状況で行っています。人と金の両輪が回っていかない。福祉の分野は特に人材が不足しています。人の問題がすべてに通じていると考えています。

そのほかに、グラフの凡例が判別しづらい部分があります。特に点を使用しているものは、見づらいです。

(議長)

グラフは変更可能なのでしょうか。

(事務局)

グラフについては対応可能なので、対応いたします。

(委員)

適切な支援につなげる仕組みづくりについて、私たちが事業所で利用者を受け入れる際、義務教育がまったくできていないという事例が多くあります。自立したときに「もっと早ければ」という言葉を多く聞きます。義務教育だから介入できる場面というものがあると思います。貧困や、虐待、引きこもりの問題について、年齢で区切ってしまうのではなく、継続して一体的に受けられる支援があるといいなと思います。

(議長)

ありがとうございます。どの計画にも、おぼろげに想定する対象年齢というものがあると思いますが、それらを取り払ったものも考えていかなければということですね。地域福祉計画でもそのような考えを取り入れていただければと思います。

(委員)

前回も申し上げたかもしれませんが、人材不足が課題になっており、行政にもっと人に対する投資をしていただきたい。施設整備も大切ですが、人に投資して人を育てていくということを行っていないと、人不足がいつまでも課題として残ってしまうと思います。どうぞよろしく願います。

(委員)

大学の授業でボランティアを単位化するというのも可能ですので、学生は単位を与えるというインセンティブがあればある程度集まると思います。本学はスポーツボランティアに力を入れていまして、300人くらい集まっています。ボランティアの種類も多角化していく中で、福祉ボランティアに関心のある学生もいると思いますので、どこまで大きくなるかは分かりませんが、取り組んでみる価値があると思います。

(議長)

伊勢原市は若い世代がまだまだ多いので、学生との連携などについてもできればと思います。

(副会長)

前回の素案と見比べると、だいぶ変更があったかと思うのですが、基本的には整理整頓されたという考え方でよろしいでしょうか。

(事務局)

基本的には整理したということになります。新たに計上した4事業はございますが、それ以外については基本目標ごとに整理整頓をしました。

(議長)

ありがとうございます。すべての議事が終了しましたので議長を降板し、事務局にお戻しします。

【副会長閉会挨拶】